

日銀の視点

茨城県の面積は全国24位であるが、可住地面積では同4位と、社会経済活動が可能なエリアが広い。また、県内総生産は同11位と、全国でも上位に位置する。そして特徴的なのが、「県央・県北」「鹿行」「県西」「県南」の総生産を見ると、いずれも一つの県に匹敵する規模を有していることだ。本県は一つの都市や地域に集中した経済基盤ではなく、各地域に経済活動が可能なエリアが存在する中でそれぞれ主要な都市や産業集

日銀水戸事務所長 稲見 征史

本県経済はマンモス級

積があり発展してきたと言え、マンモス的な規模を持つ県と捉えることができる。

一口に茨城県と言っても一意に特定した特徴で言い表すことが難しいが、これは規模が大きく地域性も多様、各地

ず日常的に行われている。外部性が高いことで規模のダイナミズムを享受できている。

戦後の発展過程を見ると、鹿島臨海工業地帯、筑波研究学園都市といった官主導により礎が作られた地域や、海外

げがなされてきたと感じる。今後も縮小均衡になることなく、県内に根付く強い取り組み精神の下、各地域でバイタリティあふれる企業家や住民が模索し取り組む中で、その自由度が強さの源泉となり

発展していくことを願う。

他方、少子高齢化や人手不足

などもあって、県内地域間で

この競争から産業構造の転換を迫られた地域もあるが、歳月を経る中で各地域の企業や市民、自治体が思考を重ね、たゆまず積極的な経済活動や施策を講じてきたことで、いずれの地域も満遍なく発展を遂げ、県全体の経済規模の底上げ、

速道路は鉾田・潮来間の延伸

や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の4車線化で都心部や羽田・成田空港へのネットワーク網の拡充・多重化が進展する。これにより首都圏の供給拠点として本県の可能性はさらに広がり、企業誘致の面でも引き続き魅力的な位置を保つだろう。また、この道路網の整備は、県内各地域の連携の促進にも寄与する。経済の低成長や人口減少などに悩むわが国において、本県は、経済の拡大にマンパワーが追い付くかといった思わぬ課題はあるが、多くの地方が抱える課題とは逆方向の将来に向けた明るい要素が多いと感じるのである。

域に豊かな社会経済基盤があることの証左とも言えよう。交易の面でも、東側の地域は港があり内外との往来が盛んだ。県西・県南は隣県の栃木、埼玉、千葉県と平地でつながっており、経済取引やヒトモノの往来が県境を意識せ